

研究開発ビジョン ～多次元統合防衛力の実現とその先へ～（概要）

背景と目的

- 新たな領域に関する技術や、人工知能等のゲーム・チェンジャーとなり得る最先端技術を始めとする重要技術に対して選択と集中による重点的な投資を行うとともに、研究開発のプロセスの合理化等により研究開発期間の大幅な短縮を図る。
- 今後の我が国の防衛に必要な能力に関する研究開発ビジョンの策定等による予見可能性の向上により、企業の先行投資の促進を図るとともに、その力を最大限に引き出す。

【平成31年度以降に係る防衛計画の大綱】

基本的な考え方を示し、重要技術分野の課題やロードマップを作成

基本的な考え方

1. 政策的方向性を踏まえた技術シーズと運用ニーズの一致

技術・政策・運用が一体となった検討を継続的に実施し研究開発を行う。

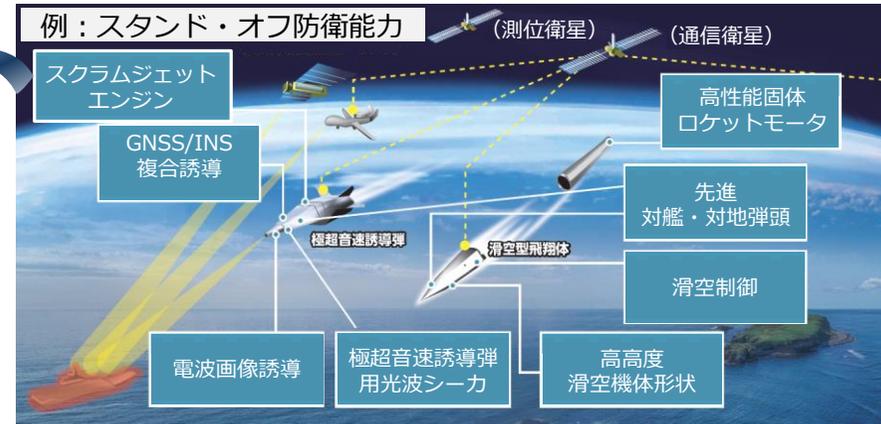
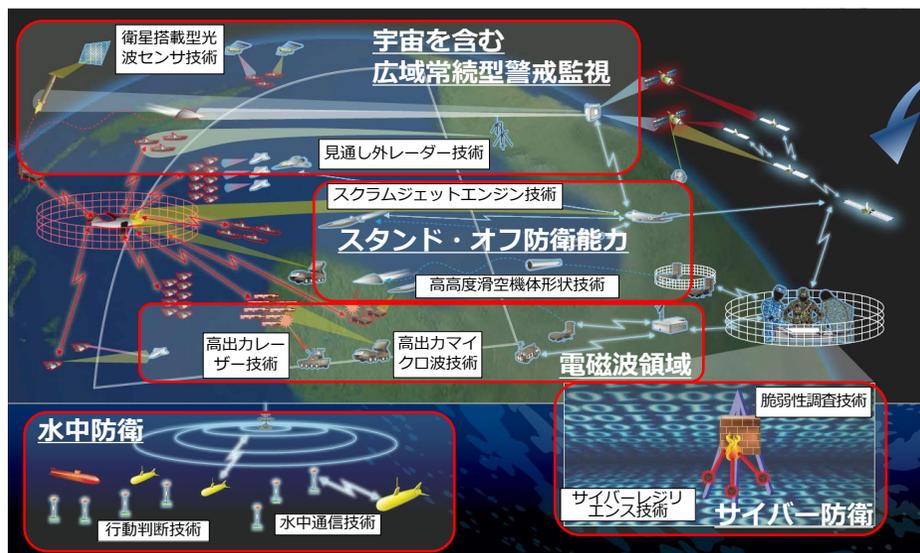
2. 先進技術を活用した効率的な研究開発

防衛装備庁による研究のほか、関係府省等との連携、共同研究、最新民生技術の取込等を含む様々な手段を組み合わせ、必要な技術を獲得。合わせて、安全保障技術研究推進制度を活用した萌芽的な技術の発掘・育成に努める。

3. 迅速な研究開発

ブロック化、モジュール化をはじめとした研究開発のプロセスの合理化等により、研究開発期間の大幅な短縮を図る。

技術成果の適用イメージ



今後、安全保障環境や技術動向等を踏まえ、新たなテーマの追加や見直しを含め柔軟に対応していく。